

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	国際教養大学
整理番号	B11
構 想 名	日本発ワールドクラスリベラルアーツカレッジ構想

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) S	優れた取組状況で事業目的が十分に達成され、今後も持続的な発展が確実に期待できる。
(コメント) <p>事業期間全体において、全て英語の講義や、1年間の海外留学必修、外国人教員比率50%以上などに代表されるように、平成16年の開学当初から新しいグローバル教育に挑戦してきた貴学が、「ワールドクラス」へと進化するために実施されたものとなっている。事業展開に当たっても、貴学が開学より導入している全取組みを検証し、改善・強化するだけでなく、検証段階で課題とされた、①24時間リベラルアーツ教育の推進、②世界標準カリキュラムの充実、③日本の英語教育の改革推進、④国際ベンチマーキング実施という4つのプロジェクトを加え、それらを確実に実行してきたことは高く評価できる。</p> <p>特に、「世界標準」という概念を独自に定義し、その実現のために形式的基準と質的基準を備えることで、「学びの連続性」と「学修の質」を担保し、留学生の多様なニーズに応えられるカリキュラムが構築されたことは貴学ならではの成果と言える。また、大多数の学生が寮生活であるという貴学の特性を生かした、「テーマ別ハウス群」の導入による日本人学生と外国人学生の密な交流を通じた能動的な学修活動の動機付けや、イングリッシュビレッジ、ティーチャーズセミナーによる取組みは、英語教育を伸ばすことだけでなく、地域と連携することで経費面での採算も取れており、計画以上の成果を上げていると評価できる。構想全体として、計画途中にコロナ禍の厳しい状況があったにも関わらず、当初設定した成果指標の最終年度目標は大方高いレベルで達成されており、なおかつ事業終了後の自走化面においても先を見据えたものとなっており、優れたものであると言える。</p> <p>一方で、開学当初からグローバル施策に特化した取組みが行われており、非常に高い基盤の元での成果指標の目標が設定されていたためと考えられるが、独自指標も含め、いくつかの指標においては未達成のものが見受けられる。これらの項目については、引き続き改善を図っていただき、「日本の高等教育の国際化を牽引」し、「高等教育におけるグローバル人材輩出のモデル校」として、各種取組みを推進していただきたい。</p> <p>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。</p>	